

2019 年度 事業計画



特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺
ショートステイ オレンジタウン笠寺
オレンジタウン笠寺 デイサービスセンター
特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺Ⅱ
ケアプランセンターオレンジ(居宅介護支援事業所)

1. はじめに

2019年度は法人設立から6期目、特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺開設から4期目を迎える。さらに特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺Ⅱが当年4月に開設予定である。

社会福祉法人善常会の設立理念でもあるコミュニティケアの進展、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後までつづけることができる町づくりに寄与すべく、地域へアウトリーチできる素地、また地域社会との連携強化に注力し、地域社会から必要とされる存在となれるようアプローチを継続したい。

そのためにも、人材の確保ならびに定着は、喫緊の課題である。

また新しい拠点も増えることから、基本に立ち返り、コンプライアンスの遵守、人材の育成、安心・安全なサービスの提供など地道に取り組み、ステークホルダーから信頼される存在を目指す。

以下の取り組み課題については、中長期的なビジョンに立ち、構築、実行が必要な事柄もあり、内容によっては複数年度で取り組むこととする。

2. 基本方針

(1) 地域に根ざし、地域包括ケアシステムの一端を担う

重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後までつづけることができるよう、地域社会と連携して町づくりに参画していく。

(2) ICFモデルの視点に立ったケアの提供

利用者の生活歴や生活機能の把握に努め、「している“活動”」の向上を目指し、結果として「その方らしい生活」を提供していく。

3. 主な取り組み課題

(1) 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

利用者一人ひとりが、自分らしく尊厳を重視した生活が営めるよう、自立支援を観点にしたケアプランを多職種協働で作成し、それに基づいたケアが標準的に誰でも行えるよう質向上を図る。

(2) 組織文化の醸成（人材確保と定着）

就労人口が減少し、介護人材の不足が深刻化する現在、拠点も増えることから必要な人材の確保ができるよう、各種就職フェアへの参加、教育機関との連携など積極的なリクルート活動を行う。

また人材育成のシステム化、キャリア形成の可視化に取り組み、結果として職員が「善常会で働く意味」を感じられる組織文化の醸成を引き続き目指す。

(3) 地域との共生に向けた取り組み

サロンの開設、認知症カフェの拡充をはじめ、地域の方々が困ったときに相談できる場所、気軽に立ち寄れる場所となれるよう、引き続き関係機関との連携に取り組む。また学区の行事や地域のサロン等に専門職がアウトリーチできるようPRを行う。

(4) 災害対策

オレンジタウン笠寺Ⅱ建設と同時に、非常用発電機を設置し、オレンジタウン笠寺にも電力供給できるよう整備した。これにより両施設とも最低限の電源が確保できた。

今年度、震災等の大規模災害時にも事業継続ができるよう、事業継続計画（BCP）を完成させる。同時に災害時、地域において必要な協力ができるよう、地域と協働してBCPを作成し、災害に強い施設を目指す。

(5) 事業運営の透明性の向上

主にホームページを活用して情報発信を行う。ステークホルダーのニーズに応え得る情報をスピーディーに発信できるよう、ホームページのリニューアルを行う。

4. 実施する事業

(1) 特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺（定員 80 名）

開設 4 年目となる 2019 年度は、財務基盤の安定化と、医療ニーズの高まりに伴う入院者の状況を鑑み、96.25%の稼働率（1 日当たりの平均実利用者数 77 名、年間延べ利用者数の見込み 28,182 名）で計画、事業活動資金収支差額は 50 百万円（対収入比 12.2%）を予定する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

○暮らしの継続を意識したケアマネジメント

一昨年導入した全老健版ケアマネジメント方式 R4 システムにより、主に ADL に着眼したケアマネジメントを実施している。

今年度はさらにユニットケアの理念である「暮らしの継続」を目指し、24 時間シートの充実を図り、画一的ケアから脱却し、その方らしい暮らしの実現を目標とする。

○職員間の情報共有、ケア方法の統一

今年度より、施設運営情報システムを一新し、情報共有が図りやすい環境が整った。現在、別々のシステムで運用している職種間の情報が一元化されたことで、サービス内容の統一、業務の効率化を目指す。

また委員会活動は横断的な組織編成で、施設全体の人材交流と、職員の専門性獲得につながるため、常に在り方を見直しながら発展的に継続し、データの蓄積を行う。

○名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加
自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

② 人材確保と定着

○組織文化の醸成

開設4年目を迎え、原点に立ち返り、理念の浸透を図る。経営層と職員のコミュニケーションを活発化し、行動指針策定プロジェクトを実施する。

それにより、理念および基本方針の浸透を目指し、職員が同じ方向を向いて業務にあたることで、組織文化の醸成につなげる。

○教育体系の策定

新任者、3年目、リーダー等、キャリアステージに合わせた教育が実施できるよう、体系整備を急ぐ。外部研修に積極的に参加させ、モチベーション向上とともに、自己覚知につなげる。

○技能実習生、EPA（経済連携協定）スタッフ等外国人スタッフの教育

現在、3名のEPAスタッフが在籍しており、うち2名が国家試験に向けた年度を迎える。また今年度は技能実習生の受入れも予定しており、その他一般採用でも外国人スタッフが増加する中で、個別性に応じた支援を行うとともに、教育体制を確立するため、情報収集し、必要な検討を行う。

○ノーリフトケアへの取り組み

職員の腰痛予防、負担軽減を目的として、ノーリフトケアに取り組む。

入居者にも職員にも負担の少ないケアを実践する。またその他の機器の導入についても調査、検討する。

③ 地域社会との共生

○高齢者サロンの開催

笠寺学区区政協力委員会が主催するサロン、地域のケアマネジャーが主催するお食事会の開催など、地域に気軽に活用いただける場所、人材を目指す。

④ 災害対策

○BCPの策定と地域防災との連携

南区自立支援連絡協議会と協働し、外部講師の協力を得て、5月より活動を予定している。BCPの策定をはじめ、地域消防団、区役所、災害ボランティアコーディネーター等、関係する機関と協働して、地域防災との連携を図る。

○地域との合同防災訓練の実施

大規模災害の発生に備え、笠寺学区区政協力委員会ははじめ地域消防団等と合同で防災訓練を実施する。

(2) ショートステイ オレンジタウン笠寺（定員10名）

在宅での暮らしを支える社会資源として、極力有効に活用いただけるよう、原則として長期間のショートステイの受入れは行わず、真の在宅支援ができるよう

運営していく。

また、特養において入居者の入院加療による、空床が一定数発生する。それらのベッドをショートステイの緊急利用に有効活用しているが、空床利用を促進し、90%の稼働率（年間延べ利用者数の見込み 3,294 人）で計画、事業活動資金収支差額は△3,717 千円（対収入比△8.0%）を予定する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

○デイサービスとの連携

ショートステイとデイサービスの職員配置や、連絡会議の定期開催等、一体的に運営することで、両サービスを併用してご利用いただいている利用者の情報が共有でき、状態変化や細かなニーズにも対応しやすい。

今年度は、両サービスの連携をシステム化し、より柔軟な対応とサービスの質向上につなげたい。

○個別機能訓練の充実

リハビリ専門職を配置している強みを生かし、ショートステイ利用中に ADL を維持する、むしろ向上できる個別機能訓練を実践している。

リハビリ専門職のみならず、利用者に関わる全職種が「している“活動”」を意識し、当ショートステイの強みとなっている。

○緊急受け入れへの対応

ショートステイの本来的な役割を鑑み、特養入居者の入院による空床がある場合等、積極的に緊急短期入所の受け入れを行う。

○名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

② ～④ 特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺と同様とする。

(3) オレンジタウン笠寺 デイサービスセンター（定員 30 名）

通所サービス激戦区で最後発の当事業所は苦戦を強いられているが、少しずつ利用者数を増やしている。当年は 1 日あたり 22.1 名（年間延べ利用者数の見込み 6,878 人（総合事業を含む））で計画し、事業活動資金収支差額は 17 百万円（対収入比 26%）を予定する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

○ショートステイとの連携

デイサービスとショートステイの職員配置や、連絡会議の定期開催等、一体的に運営することで、両サービスを併用してご利用いただいている利用者の情報が共有でき、状態変化や細かなニーズにも対応しやすい。

今年度は、両サービスの連携をシステム化し、より柔軟な対応とサービスの質向上につなげたい。

○在宅生活の継続ができるよう「している“活動”」に着目したサービスの提供
デイサービスを利用することで、家族のレスパイトだけでなく、利用者本人の
生活機能の維持、向上、社会参加につながるサービスを提供する。

○自分で選べるプログラム

提供するプログラムの見直しを随時行う。利用者がそれぞれのニーズから、自
分でプログラムを選択できる取り組みを推進する。

○名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

② 特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺と同様とする。

③ 地域社会との共生

○ボランティアの活用

自分で選べるプログラムの実践に際しては、アクティビティの講師役、運営の
補助など、地域のシニア層の方々にお力添えいただけるようコーディネートし
ていく。結果として、地域の方々の介護予防につながることを目指す。

④ 特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺と同様とする。

(4) 特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺Ⅱ (定員 80 名)

4 月 1 日開設予定。今年度は安心・安全な施設運営を目指し、運営が軌道に乗る
ことを最優先する。

初年度は 87.4%の稼働率(1 日当たりの平均実利用者数 70 名、年間延べ利用者
数の見込み 25,585 名)で計画、事業活動資金収支差額は 8,593 千円(対収入比
2.4%)を予定する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

○職員間の情報共有、ケア方法の統一

施設運営情報システムを活用し、適時適切に記録ができ、職員間で情報共有を
図れることを目指す。

ケアマネジメントの必要性とその意味を理解し、サービス内容の統一を図るこ
とを目標とする。

また施設運営に必要な委員会を開催し、コンプライアンスを遵守する。

○名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

② 人材確保と定着

○職員の定着化

OJT、Off-JT を通して、未経験者には介護職のやりがい発見につなげ、また
キャリア採用者には善常会で働く意味を見つけてもらい、定着化を図る。

適宜外部研修に参加させ、モチベーション向上とともに、自己覚知につなげる。

○EPA（経済連携協定）スタッフ等外国人スタッフの教育
外国人スタッフが増加する中で、個別性に応じた支援を行う。

○ノーリフトケアへの取り組み

職員の腰痛予防、負担軽減を目的として、ノーリフトケアに取り組む。

入居者にも職員にも負担の少ないケアを実践する。またその他の機器の導入についても調査、検討する。

(5) 居宅介護支援事業所 ケアプランセンターオレンジ（設置予定）

必要な人員を確保し、できるだけ早期の開設を目指す。